

口頭発表C③

## 初年次学生を対象とした社会人基礎力を伸ばす授業提案 —社会性形成科目群「自分探しと現代社会」を通して

中恵 真理子<sup>1)</sup>、大橋 眞<sup>2)</sup>、後藤 寿夫<sup>1)</sup>

1) 徳島大学全学共通教育センター

2) 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

### I. 「社会人基礎力」とは

文部科学省、科学技術・学術審議会人材委員会では、産学各々と連携していく上で、今後求められる人材像あるいは能力について、共通の認識を持てるよう、いくつかの要素をとりあげている。これらの要素としては次の4つからなる。

1、当該分野の専門知識の土台となる「各分野における基礎的な知識」の徹底的な理解。

2、産業のグローバル化に伴い、多様な地域で、様々な人々と一緒に仕事をしていくための「グローバルな感覚」の素質。

3、開発から商品・サービスまで、一連のバリューチェーンを俯瞰しプロジェクトを遂行していく「マネジメント力」。

4、学んだ知識を現場に適用し有効に活用していくための能力として、「課題発見・解決力」、「コミュニケーション能力」等、いわゆる「社会人基礎力」

本稿ではこの4つの要素の中の「社会人基礎力」を取り上げ、教養教育でこの能力を伸ばさせるものとして、具体的授業でどのような設計・工夫が行われたかを発表する。そのことを記す前に、「社会人基礎力」がどのような能力を指すかということについて、先の委員会での配布資料から抜粋しようと思う。それによると、「社会人基礎力とは、職場や地域社会の中で仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力をいい、経済産業省では社会人基礎力を「前に踏み出す力（主体性・働きかけ力・実行力）」、「考え抜く力（課題発見力・計画力・想像力）」、「チームで働く力（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力）」として、12の要素からなる3つの能力として定義し、共通言語として発信している」となっ

ている。

### II. 名著講読「自分探しと現代社会」について

この授業は平成20年度GP採用のプロジェクトの一環として、平成21年度後期、平成22年度後期に開講された社会性形成科目群の中の、社会人ボランティア参画型の授業である。シラバスの【授業の目的】には、「本を読んで考えを深めたり、社会人も交えて異なる世代・異なる考え方を持った人との意見の交換をすることで、多様な視点で考え表現する能力を身につけます。「自分探しと現代社会」がテーマで、人が「成熟」ということの意味を考えましょう」と伝えてある。このテーマを授業設計した背景には、社会性形成科目群の中で（つまり社会性形成という目的を果たしつつ）、学生、教員、社会人が、共通の土俵で話し合える「自分探し」という現象を話題の中心に置いたということがある。周知のように現代社会では、「自分探し」は若者男女すべての人の課題であり、アイデンティティの不確定性を、可変性と読み替えて社会が設計されている世の中である。このような社会に暮らす我々は、自己の可能性を活かしきり、社会の中で一定の役割を果たしていく、そのようなあり方を各自が模索しなければならない立場にある。そこで、科目群の性質からも、学生・教員・社会人3者の学びという設計からも適切であると考えた。

### III. 講義内容

とはいっても、ディスカッションには適切な材料が必要である。映画鑑賞以外はテキストを事前に配布し読んできてもらい、LTD話し合い学習法で進めた。以下全15回分の授業設計を紹介する。

## 1 回目 オリエンテーション

授業の目的、評価方法などを伝え、自己紹介を行った

2 回目～4 回目 大庭健著『私という迷宮』の一部分をコピーし配布

ページを3分割し、一回目は、「自分探し」という現象の特徴、二回目は「自分探し」が強られる社会の構造について、三回目はデカルトと独我論について話し合った。ここでのディスカッションの目標としては、「自分探し」が強られる社会の中での「生き難さ」や「仕組み」、その一方で「選択できる」ことの意義を考えてもらうことだった。

5 回目～7 回目 『ローマの休日』の視聴

5 回目と6 回目の前半は『ローマの休日』の視聴にあて6 回めの後半で、映画の感想を「大人になること」「成熟」をテーマに感想を出し合ってもらった。7 回目では感想から出てきたキーワードをピックアップして議論を発展させようとした。それらの中には、「自由」と「責任」の問題、「責任を自覚すること」と「成長」との関連性、また、皇女のように「属性の決まった人生を生きること」と、「選択して生きること」の違いなどについても、意見を交わした。

8 回目 中間レポート発表

この抄録を書いている時点で7 回目まで終了しているので8 回目以降は、昨年の授業を参考に授業目標を書く。中間レポート発表は、提出してくれたレポートを文集にまとめて配布し、グループで意見交流してもらうこと、互いの達成度を自覚してもらうことが目標である。

9 回目～12 回目 フロム著『自由からの逃走』の一部分をコピーし配布

ドイツ中間層の生活の基盤が揺らぎ、アイデンティティの不確定性に陥ったことから、ナチズムの台頭を許したという、フロムの分析を扱いながらディスカッション。個人的な課題が社会の課題と接点を持つということを理解してもらい、現代社会における社会的課題を身近に感じて討論してもらうことが目標である。

13 回目 加澤恒雄著『ペタゴジーからアンドラゴジーへ—教育の社会的・実践的研究—』の一部をコピーし、配布

教養の授業と生涯学習の重要性についてこれまでの授業を振り返りながら、ディスカッションするのが目標。

14 回目 抜粋した新聞の切抜きを準備し、当日配布。各々に記事を選んでもらう

選んだ記事の要約とコメントを考えてもらい、グループで交互に発表。コメントを互いに言い合う。13 回目までの授業で養った批判的思考力を実践してもらうのが目標

15 回目 期末レポート発表

「自分探し」もしくは「現代社会の課題」を扱った本を自分で選んでもらい、小論形式で書いてもらう。

#### IV. 社会人基礎力向上という観点からの授業評価

平成21年度・22年度の授業の実践例を材料として、社会人基礎力の向上という観点から授業を評価・考察したものを、カンファレンスでは発表する。